

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2020.9/10

関西館書庫棟探訪

第55回貴重書等指定委員会報告

新たな貴重書のご紹介

国立国会図書館で働いています



国立  
国会  
図書館  
月報

NO.713 / 714  
SEPTEMBER / OCTOBER  
2020  
CONTENTS

- 1 笑う人々  
— 『ニコニコ写真帖』  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 6 関西館書庫棟探訪
- 16 第55回貴重書等指定委員会報告  
新たな貴重書のご紹介
- 26 国立国会図書館で働いています  
NO. 8

- 30 館内スコープ  
チームワークの賜物 関西館「書庫棟」誕生！
- 31 本屋にない本  
『狩谷椽斎と経籍訪古志』
- 32 NDL Topics



表紙：  
『東海道五十三次・瀬戸内海』から「音戸瀬戸」  
水島爾保布 著・画 金尾文淵堂 大正9(1920)年  
19cm  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/960963/162>  
(モノクロ画像)

# 笑う人々—『ニコニコ写真帖』

山本俊亮

俺までニコニコへ引張り出すのかウム……  
頭山満



## ニコニコ写真帖 第1輯

ニコニコ倶楽部 大正1 50p; 18×27cm  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1087212>  
(モノクロ画像)

※本稿に掲載した写真のうち特に記載のないものは、『ニコニコ写真帖』掲載のもの

「俺までニコニコへ引張り出すのかウム……」  
(頭山満)

明治43(1910)年、日本の近代史に残る一つの事件が起こった。明治天皇暗殺計画があったとして幸徳秋水ら日本全国の社会主義者や無政府主義者が一斉に逮捕、起訴され、そのうち12名が処刑されたいわゆる「大逆事件」である。日露戦争後の不況と社会不安の中、広がりを見せていた無政府社会主義運動とそのひとつの結論としての「大逆事件」を受けた当時の人々の衝撃は計りしれない。そんな不安な時代にひとつの雑誌が創刊された。雑誌『ニコニコ』である。

雑誌『ニコニコ』は、不動貯金銀行の設立者である牧野元次郎らを中心としたニコニコ倶楽部が創刊した。不動貯金銀行とは、三年貯金という今でいう定期預金の仕組みで成功し、当時の日本随一といわれた貯金銀行である。日本各地に支店を持ち、現在でもその建物が残っている場所もある。その銀行経営の傍ら、牧野元次郎は旅先で大黒天の木像に出会ったことがきっかけとなり、「君の恩、親の恩、師の恩の三つの恩を忘れないこと」「腹を立てぬこと」や「嘘をつかぬこと」といった五カ条を守ることで大黒天の加護を受ける「ニコニコ主義」を標榜し、それを広めるた



(右) 牧野元次郎の肖像。下に書かれているのは「にこにこ座右銘」  
 (左) 不動貯金銀行京都支店（現SACRAビル）  
 『にこにこ風景図鑑』誠實堂書肆 昭和6  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1112194/54>



(右) 「将軍の笑顔」「珍中の珍」と題された集合写真。右から山本権兵衛、伊東祐亨、井上良馨、東郷平八郎  
 (左) 加藤弘之

めに様々な活動を行っていた。そのうちのひとつ、雑誌『にこにこ』は、著名人のにこにこ笑顔の写真を掲載し、編集主幹の松永敏太郎によって硬軟織り交ぜた紙面づくりがなされていた。探訪記者の松崎天民等が記事を執筆した。その雑誌『にこにこ』の姉妹編として発行されたのが『にこにこ写真帖』である。

『にこにこ写真帖』は、著名人やにこにこ倶楽部の会員の笑顔の写真を集めた写真帖である。歴史の教科書等に掲載されている当時の著名人の写真はかしまった厳しい顔つきのものが多い。しかし、この写真帖には皇族の写真、洪沢栄一や高橋是清、後藤新平、政財界の重鎮、また東郷平八郎、寺内正毅のような軍人、巖谷小波、森鷗外等の文人のにこにこ笑顔に加え、日本における国家主義運動の草分け的存在の玄洋社の中心人物であった頭山満の笑顔の写真も掲載されている。中には、加藤弘之のように、一見、笑顔には見えない写真があるのも興味深い。

※旧字は新字に、繰り返し符号は直前の文字に置き換えた。



(右から) 渋沢米一、高橋是清、後藤新平  
出かける前というシチュエーションが多い



(右上) 軍服姿の森鷗外  
(右下) 与謝野晶子  
(上) 巖谷小波。右上の二人は博文館の編集者浅田江村(右)、坪谷水哉(左)

## 2

牧野元次郎と教育、学术界との関係も興味深い。昭和5年の共立女子薬学専門学校の設定時には資金面で援助した。また、心霊研究との関係では、千里眼事件<sup>(註)</sup>の当事者であり、『透視と念写』の出版によって、東京大学を辞職する福来友吉への支援が興味深い。資金面での援助とともに、『ニコニコ』の編集顧問の肩書を与えている。福来は東京大学の休職を命じられた直後の大正2(1913)年12月の第35号に「余と千里眼問題」を執筆している。

## 3

ニコニコ行事の順序(抜粋)

(一) 先ず神前に向かって三度拍手し、力を下腹部に入れ、猛烈に振魂を行うこと。(眼を閉ぢ手を十字に組み合せ、ニコニコの大神と唱へつつ、上下に振ひ動かすこと凡そ十分間)

(二) 次に自己暗示を唱ふること。

一、身体は健康！(力を入れて一度唱へ姿勢を正うすること)

二、精神は鞏固！(きょうこ)

三、事業は成功！

(三) 次に三回気合を掛けること。

イーエツ、イーエツ

(四) 次に四回深呼吸を為すこと。

先づ気を吐き、仰向けとなりて鼻より十分に気を吸ひ込み、然る後、気を吐き出すこと、但し四回目の終には吸ひ込みたる気を吐き出ださず其儘呑み込み置くこと(以下省略)

## 1

ニコニコ倶楽部は大正2(1913)年に「にゃんにゃん展覧会」という猫の展覧会を上野精養軒で実施したり、大正5(1916)年に当時としては珍しかった飛行機に着目し、著名な飛行家坂本寿一が操縦する飛行機と同乗者を一般から女性限定で募集し、東京の上空をフライトして、5円の勸業債券、雑誌『ニコニコ』1年分の購読券や大黒天像が当たる1万枚の「福券」を散布するという企画を行ったりするなど、宣伝活動にも余念がなかったようである。



「ニコニコ倶楽部の飛行準備」『風俗画報』478号  
東洋堂 1916.3<請求記号 雑23-8>口絵

※本コラムの枠線は『ニコニコ写真帖』の目次枠線より

「ニコニコ主義」は、牧野元次郎の伝記『牧野元次郎』で武者小路実篤が書いているように「無政府主義の思想から、大反逆事件が起つた時分なので、氏は自分の思想で、さう云ふ危険思想にかぶれる人々に、氏一流の楽天主義を教へて、所謂思想善導を目的にした」ということから、単純な楽天主義だけではなかったようである。雑誌『ニコニコ』に不動貯金銀行で行われていた「ニコニコ主義」に基づいた「ニコニコ行事」の内容が紹介されている(上コラム参照)。例えば、「力を下腹部に入れ、猛烈に振魂を行うこと。(眼を閉ぢ手を十字に組み合せ、ニコニコの大神と唱へつつ、上下に振ひ動かすこと凡そ十分間)」など、単純に「ニコニコ」と笑うだけではない迫力ある行事の内容が書かれている。そもそも明治28(1895)年の三國干渉に憤慨し、「国辱を雪」ぎ、国力の充実を図るために貯金銀行事業に一生を捧げる決意をしたと後に書いたように、牧野元次郎は単なる楽天主義者だけではなかったともいえるだろう。

最後に、『ニコニコ写真帖』の本誌、雑誌『ニコニコ』に関する夏目漱石のエピソードで本稿を締めくりたい。夏目漱石の随筆『硝子戸の中』では、ある雑誌社からの写真撮影の依頼の話が語られる。「私は此の雑誌と丸で関係を有つて居なかつた。それでも過去三四



なぜか笑っている夏目漱石  
『ニコニコ』大正4年1月号(第48号)  
<請求記号 雑13-6>

○注

明治末に学会やマスメディアをにぎわせた超能力実験などの一連の騒動。  
本の万華鏡 第13回「千里眼事件とその時代」<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/13/index.html>

○参考文献

全日本写真連盟 編『カメラの歴史 幕末・明治・大正・昭和〔復刻〕』日本図書センター 2014<請求記号 KC752-L7>  
橋爪紳也 著『モダニズムのニッポン』角川学芸出版 2006<請求記号 GB491-H4>  
安食文雄 著『三田村鳶魚の時代 在野学の群像と図書体験』鳥影社 2004<請求記号 UA11-H44>  
石黒敬章 著『幕末・明治のおもしろ写真』平凡社 1996<請求記号 KC742-G8>  
共立薬科大学四十年史編集委員会 編『共立薬科大学四十年史』共立薬科大学 1970<請求記号 FB22-83>  
協和銀行行史編集室 編『本邦貯蓄銀行史』協和銀行 1969<請求記号 DF325-2>  
牧野元次郎 著『体験財話』実業之日本社 昭14<請求記号 767-167>  
清水かつら 著『少年牧野元次郎物語 ニコニコ貯金王』実業少年社 昭和11 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1097195>  
武者小路実篤 著『牧野元次郎』学芸社 昭和10<請求記号 696-44>  
『ニコニコ風景図鑑』誠賢堂書肆 昭和6 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1112194>  
夏目漱石 著『硝子戸の中』岩波書店 大正4 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/954129>  
橋川俊樹「写された漱石—「ニコニコ」笑顔強制される—」『文學藝術』35:2011.7<請求記号 Z13-852>  
坪内祐三「探訪記者松崎天民・第三部(14) 佐々木商店の広告部とニコニコ倶楽部の雑誌『ニコニコ』『ちくま』482:2011.5<請求記号 Z21-235>  
金子明雄「笑う漱石—雑誌『ニコニコ』と千円札をめぐる—」『國文學解釈と教材の研究』44(10)(通号645) 1999.8<請求記号 Z13-334>  
浅井良夫「不動貯金銀行の発展構造」『一橋論叢』85(1) 1981.1<請求記号 Z3-104>  
『ニコニコ』ニコニコ倶楽部 1911-1931<請求記号 雑13-6>  
『ニコニコ』ニコニコ倶楽部 1919-<請求記号 雑13-8イ>

年の間に一二冊を手にした記憶はあつた。(中略)けれども其処にわざとらしく笑っている顔の多くが私に与へた不快な印象はいまだに消えずにいた」ため、断ろうとするが、笑顔でなくともよいということなので結局撮影することになった。笑顔でなくともよいということではあつたが、撮影当日にはやはり笑顔を作ってくれと頼まれる。何とか笑顔の写真は断つた漱石であつたが、後日届けられた写真を見て驚愕する。なんと、写真の中の自分

は確かに笑っていたのである。漱石は、どうも後から手を入れて笑っているように拵えたものであると書いてある。  
あらためて『ニコニコ写真帖』を見てみると、当時の社会情勢も鑑みるにニコニコ笑顔の奥に歴史の深淵を覗いているような気にもなる。歴史の偉人たちのニコニコしている笑顔がこちらに語りかけてくるようである。  
「只、ニコニコせよ」。

# 関西館書庫棟探訪



国立国会図書館関西館は、年々増加する図書館資料の収蔵スペースを長期的に確保する役割を担っています。

今回、関西館第2期第1段階施設整備として、令和2年2月20日に書庫棟が竣工しました。地上7階地下1階建てで、収蔵能力は約500万冊、書架の総延長は約161kmにもなります。

本号では、図書館資料を大切に保存するための様々な工夫に着目し、建設過程の写真も含めて、書庫棟の魅力をお伝えします。



## 衆議院議長 大島理森

国立国会図書館は、昭和23年、国会議員の調査研究に資するという目的の下、日本国憲法が誓約する我が国の民主化と世界平和とに寄与することを使命として設立され、70年以上、国会の活動や議員の調査研究の補佐、資料・情報の収集・保存、情報資源の利用提供という役割を担ってきました。国立国会図書館が、その役割を十全に果たすためには、収集した資料を文化的資産として蓄積・保存するとともに、国会議員をはじめ関係者、ひいては国民の皆様が、資料や情報を利用しやすい環境を整備していくことが不可欠です。

年々増加する収集資料の収蔵スペースを確保するため、4年間の予算措置によって本書庫棟の建設工事が進められ、この度、収蔵能力500万冊という新たな書庫の整備をみたことをまことにうれしく思います。関係各位の御労苦に対し、改めて深甚なる敬意と謝意を表します。

今般の書庫の完成を受け、国会に対するサービスをはじめ、電子情報サービス、全国の図書館に対する協力事業などの一層の充実、そして、利便性の更なる向上が図られていくことを期待しております。

国立国会図書館が、その使命を達成するため、ますます大きな役割を果たしていくことを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 参議院議長 山東昭子

国立国会図書館関西館の書庫棟完成に当たり、参議院を代表してお祝い申し上げます。

今を遡ること18年前、関西館は、以下に掲げる使命を担い京都府精華町の地に開館いたしました。一つ、図書館資料の長期的な収蔵庫たること。二つ、高度情報化社会に対応した電子図書館サービスを展開すること。そしてまた、障害者サービスを実施する全国の図書館への協力に積極的に取り組むなど、図書館協力を行う拠点としての役割も担っています。

国民に充実した知的活動を提供するためには、関西と東京の国立国会図書館が一体となって事業を展開していくことが必要です。この程、新しく書庫棟が完成し、更なる図書館資料の収蔵が可能となったことで、我が国の知的資源が一段と強固になり、国民に一層高い奉仕ができるようになりました。京阪奈の緑豊かな丘陵にあるこの関西館を、よりたくさんの方々を訪れ、全ての国民の皆様が活用していただくことを願ってやみません。

国立国会図書館が、引き続き豊かな未来の創造に貢献することを期待するとともに、この度の整備に取り組まれた関係者の皆さまに心からの感謝を申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 図書議員連盟会長 細田博之

国立国会図書館関西館の書庫棟の完成、おめでとうございます。

図書議員連盟は、読書や図書館等の活動を奨励することを目的として活動しておりますが、国立国会図書館の事業についても支援してまいりました。議員連盟を代表しまして、一言お祝い申し上げます。

平成14年に開館した関西館の開館記念式典に、私は図書議員連盟の事務局長として出席いたしました。東京から約400キロ離れた関西の地に、高度情報通信技術の発展に対応する最先端の図書館サービスを提供し、図書館資料の大規模な収蔵庫を備えた、第二の国会図書館がスタートすると胸を膨らませておりました。今、振り返ってみますと、とても感慨深いものがございます。

それから18年が経ちました。関西館は成長し、文化学術研究に関する「知」の宝庫として、関西文化学術研究都市における、文化の創造や情報発信の中核的施設としての役割を發揮されております。

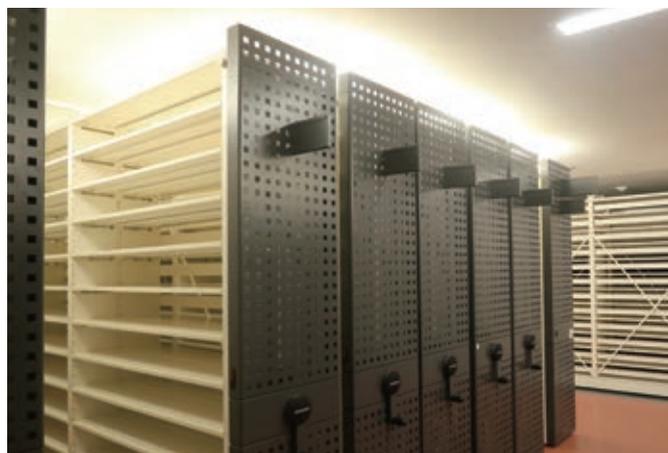
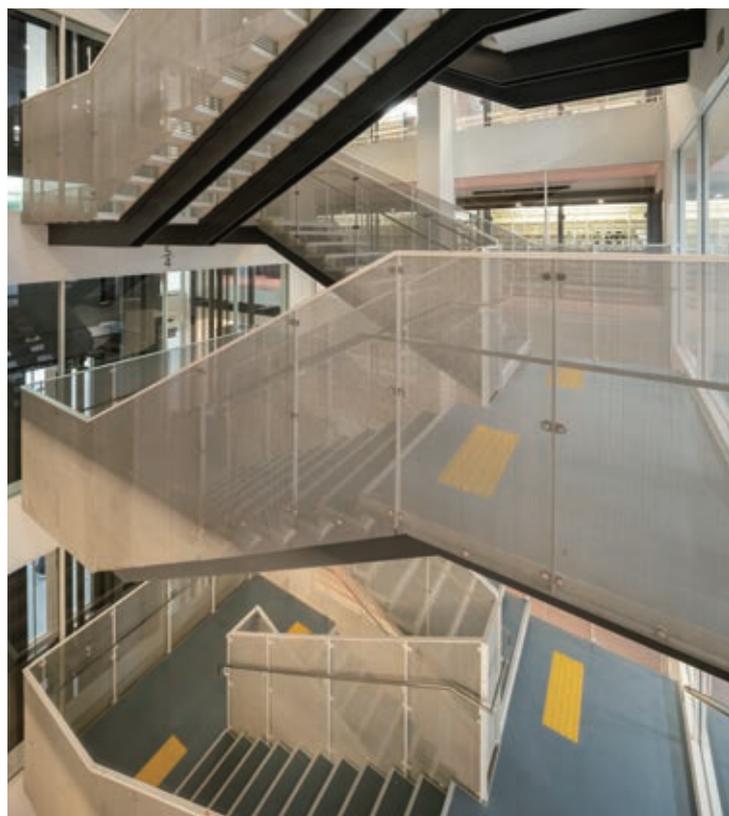
書庫棟は、収集した図書館資料を文化的資産として未来永劫保存するという国立国会図書館の使命において大変重要な施設です。国立国会図書館には、今後も国会や国民への図書館サービス向上に励んでいただきたいと思います。

エレベーターホールから書庫の様子が見えるようになっていて、書庫に入らずとも、書庫の広大さをイメージできます。ガラス越しに見える部分については、書架の色や照明も、中央廊下部と統一感があるものを選定しました。

## 見せる書庫



エレベーターもスケルトン。階段も吹き抜けて見通しがよいです。閉鎖的な空間である書庫を、開放的なイメージでデザインしました。

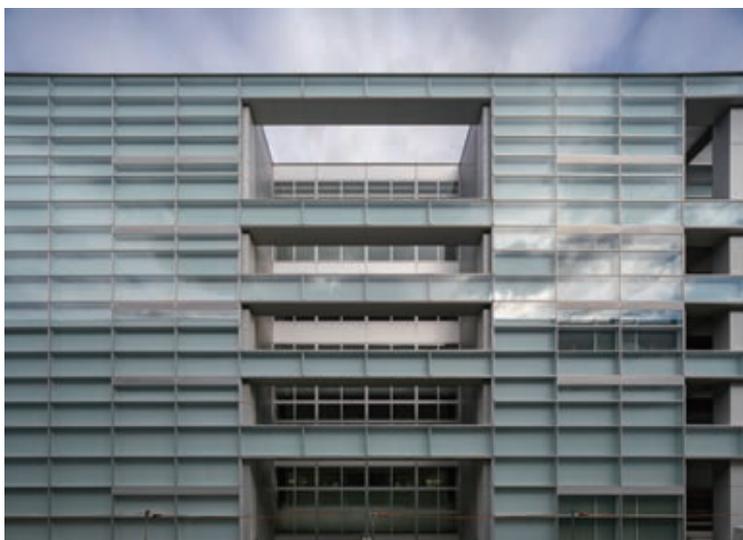


# 外観



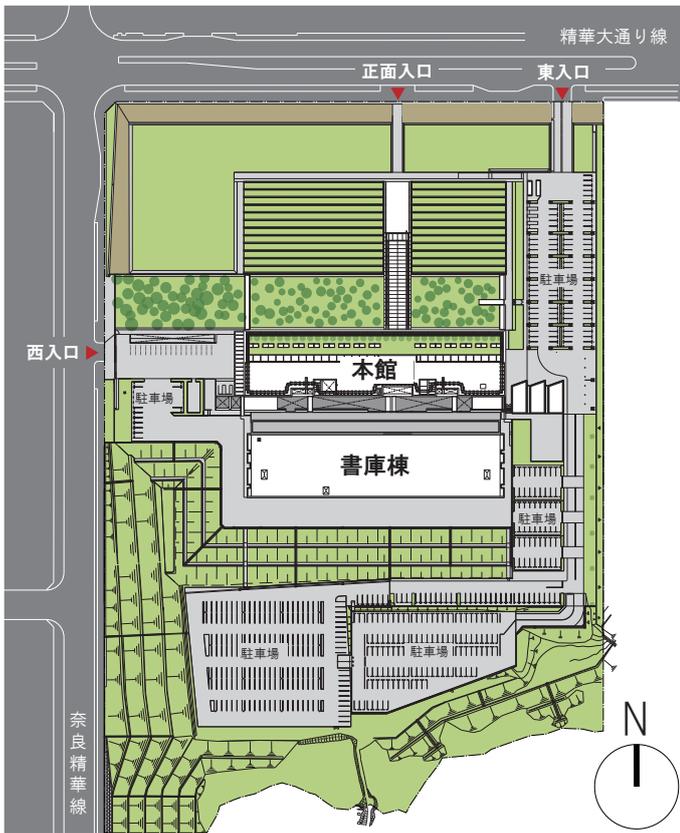
本が並んだようなデザイン。

南側から見た様子。

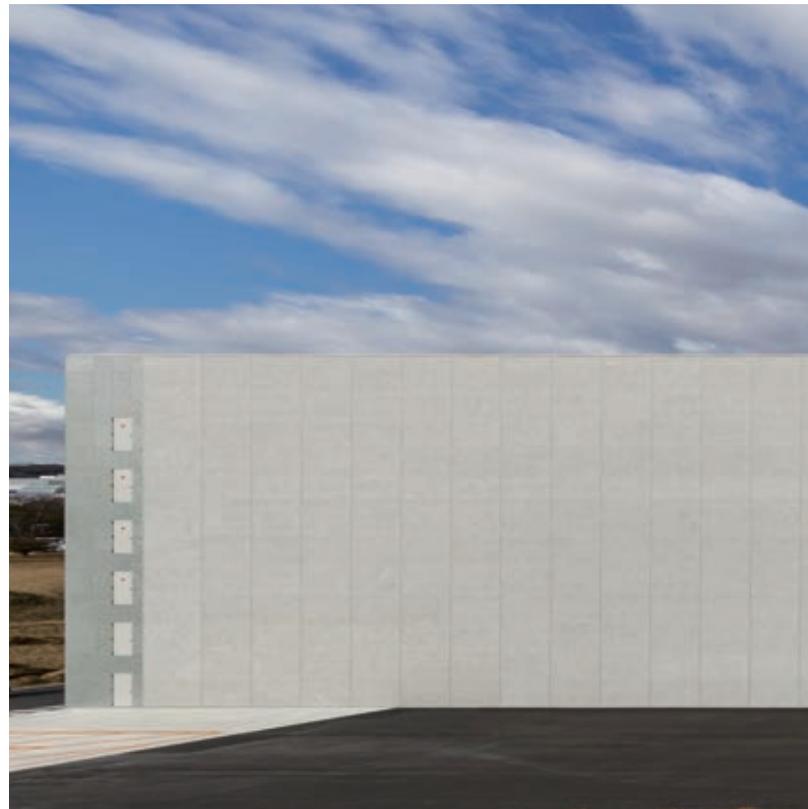
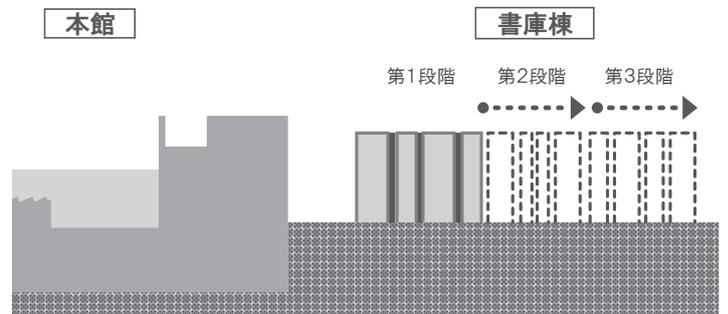


本館との間にしきつめられた砂利の大きさはまちまちで、こだわって配列しました。上の写真は書庫棟から見た関西館本館です。





書庫棟の南側には、第2段階の用地が控えています。同じデザインで、本が増えるように建物も増えていく予定です。



本をイメージした外壁の表紙にあたる部分。ガラスを多く使用している関西館本館とは対照的で重厚感あるデザインです。



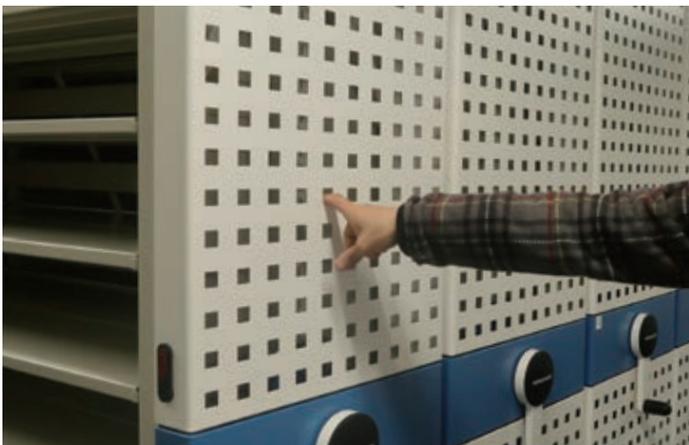
書架の側面の色はエリア毎に異なり、北側は寒色、南側は暖色を用いて、どこにいるかがわかるようにしています。

また、カビ対策の観点から書架間の隙間（間隔）を確保しています。サイドパネルに穴が開いているのもカビ防止です。

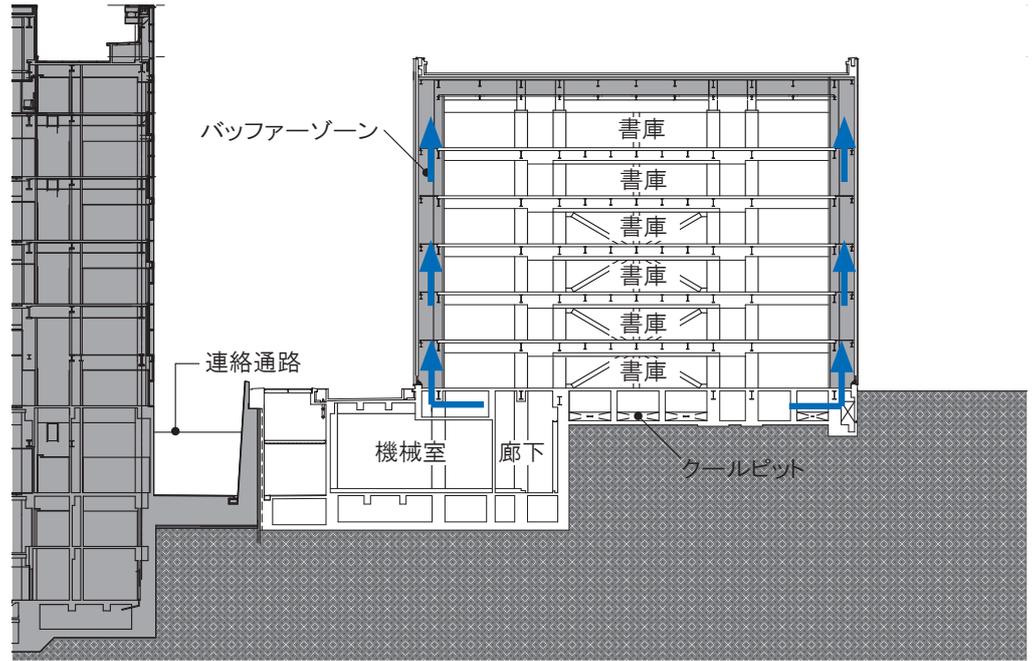
地震が起きた時は、書架間の隙間によって書架が一緒に揺れるため、資料落下防止の対策にもなっています。ただし、壁に固定された書架については、震度4以上の揺れを感知すると、棚板のラッチが自動で飛び出てくる落下防止装置を備えています。

なお、照明は資料に悪い紫外線をほとんどカットするLEDです。

## 書架の工夫

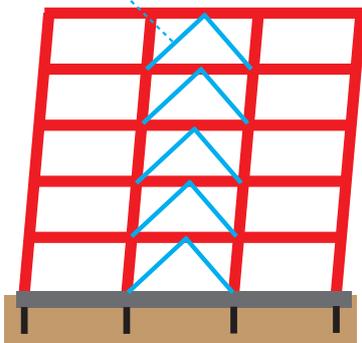


# 仕組み



書庫を囲むようにして設置されたバッファゾーンが、外気温からの室内環境負荷を軽減させます。また、地下のクールピットから、安定した地中熱をバッファゾーンに循環させることで、冷暖房用のコストを削減できます。

耐震ブレース



耐震要素であるブレースを用いた耐震構造です。柱・梁・耐震壁等が変形することにより地震に耐えます。

屋上にはもちろん太陽光発電設備。

消火設備は窒素ガスを使用。酸素濃度を薄めることにより消火します。もともと窒素は空気中に存在するので、人間にも（息苦しくはなりますが）無害です。



洗面所のタイル。閉鎖的な空間だからこそ、ちょっとしたところに美しいものがが必要です。





南側から見ると…  
(H30.2.26 撮影)



p.30 の館内スコープ  
も見てね！



# できるまで

いろいろな工程がありました、  
特徴的な場面を写真でご紹介します。



地下1階、1階の鉄  
骨柱、1階の鉄骨梁が  
設置されている様子  
(H30.1.23 撮影)



H28.11 から掘り始めました  
(H29.2.13 撮影)



地下1階床のコンクリート  
打設中 (H29.11.27 撮影)



延々と掘ります  
(H29.6.19 撮影)



クレーン車で乗入れ構台を設置している様子  
(H29.10.17 撮影)



中の作業もそろそろ。  
書架レーン取付作業の様子  
(H30.10.26 撮影)



鉄骨がよきによきと生えて  
きました！ (H30.6.25 撮影)

書架設置工事の様子  
(R1.5.24 撮影)



PC板取付け完了  
(H30.11.26 撮影)



R2.2 完成！！



外壁工事  
(R1.7.26 撮影)

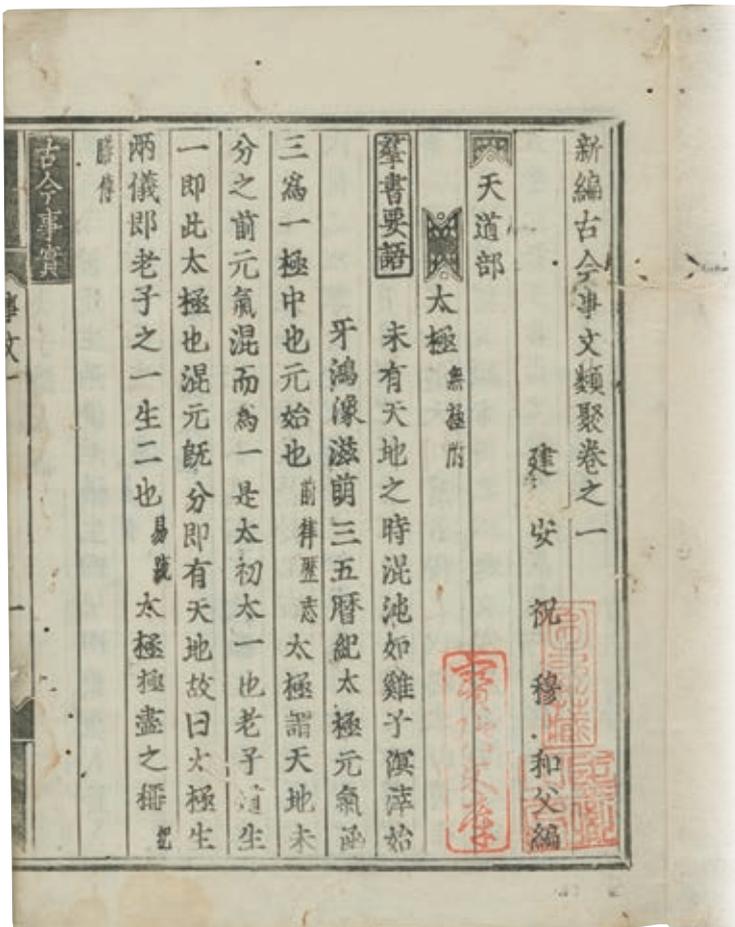


「見せる書庫」の廊下の工事  
(R1.9.27 撮影)



## 第55回貴重書等指定委員会報告

# 新たな貴重書の紹介



巻1巻頭。右下から反時計回りに「盛胤之印」=梶井宮盛胤親王(後水尾天皇皇子)、「圓融藏」=圓融房(梶井宮、明治以降は三千院と号した)および「寶玲文庫」=フランク・ホーレー(明治・大正期の著名な古典籍収集家)の蔵書印がある。

国立国会図書館は、蔵書のうち、資料的価値が高いものなどを「貴重書」「準貴重書」に指定しています<sup>①</sup>。令和2年2月19日、和漢書5点を貴重書に、和書1点を準貴重書に指定し、累計で貴重書は1310点、準貴重書は799点となりました。

(貴重書等指定委員会)

『古今事文類聚』は、宋・元の時代に中国で成立した「類書」です。目録、前集、後集、続集、別集、新集、外集、遺集から構成されています。日本においても中世以来重用され、元和年間(1615・1624)に遺集を除いた全巻が『新編古今事文類聚』として古活字版で刊行され、寛文6(1666)年以降、遺集を含めた整版が刊行されています。

本書は、古活字版の『新編古今事文類聚』です。総目1巻、目録6巻、本編221巻から成り、国立国会図書館が所蔵する古活字版の中で最多の巻数を誇ります。巻数の多さから、他機関で所蔵されている伝本の多くは、目録を分冊する等の大幅な改装が施されているのに対し、本書には目立った改装の痕はみられません。これだけの大部の古活字版が、原装に近い形で現存するのは貴重といえます。

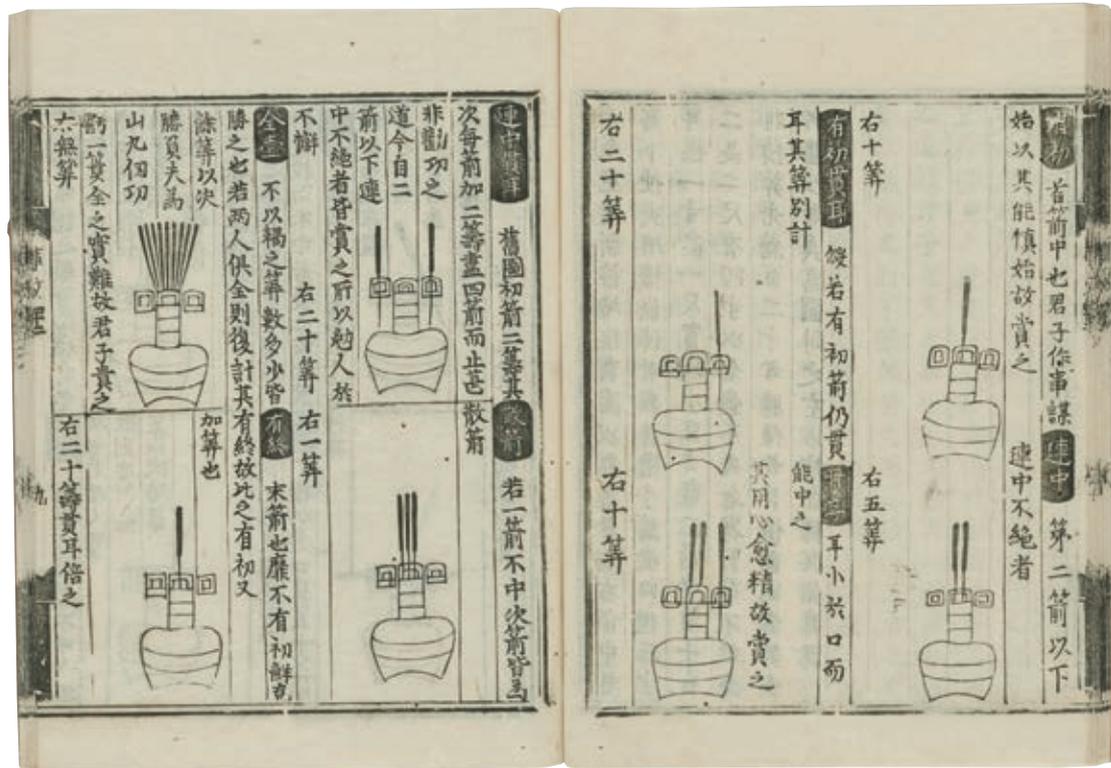
また、本書の活字の一部については、元和勅版『新雕皇朝類苑』の活字を襲用した可能性が指摘されています<sup>②</sup>。『新雕皇朝類苑』は元和7(1621)年に後水尾天皇(1596・1680)の命により刊行された古活字版ですが、その活字については木活字、銅活字の両説があります。本書の活字も含めて今後の研究が期待されるところです。

本書は、古活字版の『新編古今事文類聚』です。総目1巻、目録6巻、本編221巻から成り、国立国会図書館が所蔵する古活字版の中で最多の巻数を誇ります。巻数の多さから、他機関で所蔵されている伝本の多くは、目録を分



全83冊

巻42の8丁裏～9丁表、伎藝部「投壺」の項目に収載されている整版による挿絵（原典は『投壺格』）。「投壺」とは、壺に矢を投げ入れ、入った矢の本数や位置で点数を競う遊戯。



## 新編古今事文類聚 221巻総目録1巻目録6巻

貴重書

<請求記号 WA7-294>

(宋) 祝穆 編 (元) 富大用 [補] 編 [元和年間]

83冊 大きさ26.7×20.0cm

古活字版 四ツ目綴じ 四周双辺 有界 内匡郭 20.6×15.0cm 每半葉12行 毎行19字 対向双黒魚尾 黒口 栗皮色表紙 落丁・乱丁あり 印記：盛胤之印 圓融藏 寶玲文庫

- 1 「国立国会図書館貴重書指定基準」「国立国会図書館準貴重書等指定基準」の規定に基づき、館内の貴重書等指定委員会が行っている。
- 2 様々な分野の故事や詩文を、既存の書物から抜粋し、いくつかの部類に区分して体系化している。
- 3 文禄年間（1592-1596）から慶安年間（1648-1652）までの約50年間に活字を用いて刊行されたものを「古活字版（古活字本）」という。
- 4 1枚の板木に文字などを彫って作った印刷版。
- 5 川瀬一馬『古活字版之研究 増補版』日本古籍商協会 1967

卷上巻頭。蔵書印「寶玲文庫」  
はフランク・ホーレーのもの。



(上) 巻中巻末。書入れの「禪海」は未詳。  
禪海の書入れは巻上巻末にも見える。  
(下) 巻下巻尾。弘安6年の刊記がある。



『華嚴五教章』は、中国華嚴宗の第3祖法蔵(643・712)が著した華嚴宗の思想解説書です。仏教を5派に分類したうえで、他の仏教諸派の思想に対する華嚴宗の優位を説いたもので、華嚴宗において中心的な思想書として重んじられました。本書は弘安6(1283)年に日本の華嚴宗大本山たる東大寺において開版されたものです。江戸時代に書肆による商業出版が行われるようになる前は、寺院等による非営利出版が日本の出版の主流でした。東大寺

における出版は、鎌倉時代を通じて行われ、室町時代にはやや衰えるものの江戸時代まで続いたとされています。刊記に名のある禪尔(禪爾 1252・1325)は、東大寺戒壇院住持をつとめ、後に和泉の久米田寺の復興に尽くしたことで知られています。寺院等で作られた版木は時には数百年にも渡って大切に保存され、繰り返し印刷に付されることがありました。本書の版面には荒れた部分が見られ、印刷されたのは版木が作られた時期より後

の時代ではないかと考えられます。本書巻中の巻末には明応5(1496)年の書入れがあり、ここから印刷時期の下限を推定することができます。本書と同版で3巻が揃っているものは、他に東大寺図書館が所蔵する2点<sup>6)</sup>が認められるのみで、希少です。保存状態は良好で大規模な改装の痕がなく、原型を留めていると推測できる点でも貴重なものです。

## 『華嚴五教章』3巻

<請求記号 WA3-38>

(唐) 釈法蔵撰 禪尔 弘安6(1283)

3帖 大きさ27.3×13.4cm

東大寺版 後印 巻下巻末に「本云 弘安三年四月六日酉時於高山寺東谷以十徳上人/秘蔵之勝本鷹点交合了円戒ト云々」の識語あり 巻上巻末に「禪海」、巻中巻末に「明應五年八月廿八日/禪海」、巻中・下表紙に「寶光院〔一字不明〕」、巻下表紙に「季」の書入れあり 折帖 無辺無界 1面7行毎行20字 印記: 寶玲文庫 月明莊

- 6 本書の内題(巻頭のタイトル)は、巻上・中は『華嚴一乗教分記』、巻下は『華嚴經中一乗五教分齊義』である。日本では一般に『法蔵和尚伝』(新羅の崔知遠による法蔵の伝記)に初出する通称である『華嚴五教章』が本書のタイトルとしてよく知られており、ここでもそれを採用する。
- 7 重要文化財「東大寺聖教」(東大寺に伝来した奈良時代から江戸時代にかけての経巻類1806点の一括指定)のうち。



標題下の日付は御成敗式目制定の年月日。小汀利得（昭和のジャーナリスト・古典籍収集家）および内山直枝（明治期の軍人秋山好古・真之兄弟の従兄）の蔵書印がある。



末尾、小槻伊治による刊語。

『御成敗式目』は、鎌倉幕府の執権・北条泰時（1183・1242）が中心となって編纂した法典で、「貞永式目」ともよばれます。武家の掟を51条の箇条書きとしたもので、室町時代に至るまで実効性を保ちました。

版本として最初のもものは、室町時代後期の永永4（1524）年、御成敗式目研究の第一人者であった清原宣賢（1475・1550）の女婿、小槻伊治（1496・1551）が刊行したもので、大永版とよばれます。本書はその5年後、享祿2（1529）年に小槻が再刊したもので、享祿版とよばれます。大永版・享祿版ともに、日本人著作の最初期の出版例として貴重であり、法制書出版の初例としての意義もある資料です。

享祿2年の再刊にあたり、小槻は日本式漢文の本文に、清原家流の訓点を追加しました。小槻による本書の刊語には、文字の読みを示して内容の理解を促せば法を犯す者が少なくなると考え、訓点をつけたことが記されています。室町時代以前の訓点つき出版物は少

なく、本書はその貴重な例といえます。

『御成敗式目』は、法令としての効力を失った江戸時代においても広く刊行され、寺子屋等で読まされた。慶長12（1607）年刊行のものをはじめ、江戸時代に流布した『御成敗式目』の本文および訓点

## 貴重書

### 御成敗式目

<請求記号 WA6-96>

[北条泰時編] 小槻宿祿伊治 享祿2（1529）

1冊 大きさ26.5×20.0cm

大和綴じ 左右双辺 有界 内匡郭約21×18cm 每半葉7行 每行14字 双魚尾 線黒口 茶色表紙 印記：小汀氏蔵書 をばま 松山内山氏蔵書

8 漢文を日本語の文体で読むために、漢字のそばに書き加える文字や記号。

9 書物の刊行の年月、刊行者、刊行の経緯等について記す文章。



霊水の検分に赴いた勅使に向い、老人と息子が養老の滝の謂れについて物語る場面。  
狩野春笑亮信筆『養老勅使図』(松岡美術館所蔵)と構図が一部酷似しており、興味深い。



軸姿



## 能楽図巻

<請求記号 WA31-22>

狩野春笑筆 [元禄頃]

2軸 紙高28.6-28.9cm

書名は外箱貼紙による 各軸巻末に「狩野春笑筆」の署名および「春笑」の正方形朱印あり 金銀泥濃彩色 絵巻 卷子装 各軸とも5紙継 古金襴表紙



本書は、金粉をふんだんに置いた紙面に濃彩で描かれた絢爛豪華な絵巻で、各巻に5番ずつ、計10番の能の舞台面を描いています。能絵(能を描いた絵画)制作のピークである17世紀後半から18世紀初頭の作例と考えられ、大変豪華な作りで保存状態も非常に良好です。初代狩野春笑(1646・1715)の署名・落款があり、作者の判明する数少ない能絵の作例として貴重なものです。

能舞台ではなく、海・山・樹木等、屋外のリアルな自然を背景とした、能絵としては大変珍しい構図を採っています。このような作例は本書の他には見当たらず、能絵の現存作例として特筆されるべきものです。一方で、他機関で所蔵する能絵や屏風絵と酷似する構図も見受けられ、今後、能絵制作の研究に活用されることが期待されます。

また、能面を付けた人物が作り物(舞台装置等)とともに描かれており、能の上演の様子を写実的に描く意図があったことも推測されます。制作当時の能の上演形態を研究するうえで有用であるとともに、絵としても優れたもので、能絵として高い資料的・絵画的価値を持つと言えます。

## 謡曲のあらすじ

### 「養老」

美濃の養老の滝のあたりに霊水が湧き出たという報告があり、検分のため勅使が派遣される。老人と息子が登場し、孝行の徳か、その薬の水を発見して飲んだところ父親が若返ったことを物語り、水を飲んで勅使にも捧げて立ち去る。そのうちに天から光輝き音楽聞こえ、花降り下る奇跡のなかに養老の山神が現れ、不老長寿の泉の奇瑞と、泰平の御代のめでたさを舞う。

### 「猩々」

中国の孝子・高風は、毎日やってきて酒を飲む不思議な童子のことを語り、「猩々と名のって水中に消えたので、酒壺を持ち水のほとりで彼を待とう」という。浮かび出た酒好きな妖精・猩々は舞を舞い、酌めども尽きることのない酒壺を与える。



水中から現れた酒好きの猩々の精が、酒に浮かれて舞い遊ぶ場面。『御能狂言図巻』(国立能楽堂所蔵)と酷似した構図で、両者の関連性がうかがわれる。



第2冊、曾我兄弟の父である河津三郎（左）が俣野五郎（右）と相撲をとっている場面。右丁上方の敷物に座っている人物は源頼朝。双方に味方する人々が刀に手を掛け、一触即発となっている。この場は頼朝の一喝で収まるが、直後、河津三郎は工藤祐経の従者によって暗殺されてしまう。

『曾我物語』は、鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて成立したとされます。曾我十郎祐成、五郎時致の兄弟が18年間の苦難に耐え、建久4（1193）年5月に富士野の狩場で父の敵、工藤祐経を討つまでを描いた物語です。赤穂浪士の討入りと並ぶ有名な仇討物語として、「曾我物」と呼ばれる謡曲・幸若舞曲・浄瑠璃・歌舞などの諸作品のもととなり、広く親しまれました。本書は江戸時代前期に制作されたと推定される奈良絵本（次ページのコラム参照）です。

本書は153図に及ぶ彩色の美しい挿絵を持っていますが、これは現存が確認されている『曾我物語』の奈良絵本・絵巻の中でも有数のものです。その造本・装飾も豪華で、大名家や富裕層の依頼で制作された可能性が考えられます。また本書の挿絵の一部には、巻次とその巻の何番目に当たる絵かを表すとみられる墨書があります。これは本書が詞書の書き手、挿絵の描き手などの分業体制で作られたことを示唆するものと考えられ、奈良絵本の制作過程を知るうえでも興味深く、今後の研究が待たれるところです。

本書は保存状態も良好で、制作当時の奈良絵本の美しさをよく伝える資料です。また全20冊という冊数は奈良絵本としては大部であり、これが欠本もなく完本であるという点においても貴重な資料であるといえます。

## 曾我物語

<請求記号 WA 32-23>

[江戸前期] 写  
20冊 大きさ23.5×17.1cm  
奈良絵本（彩色絵入写本）綴葉装 毎半葉10行 毎行18字内外 漢字平仮名交じり 一部濁点あり 挿絵153図 烏の子紙 浅葱色亀甲繫 金欄裂表紙 見返し：布目金地 表紙左肩に金泥霞引書題簽を貼付 3箇所（第1冊26丁表、第3冊15丁表、第11冊35丁表）本文中ではあるが文字が書かれていない箇所あり





第7冊のうち、3番目の挿絵。右丁上部綴じ付近に「七ノ三」と墨書があり、製本時に挿絵の挿入位置を指示したものと推測される。(写真拡大部分)

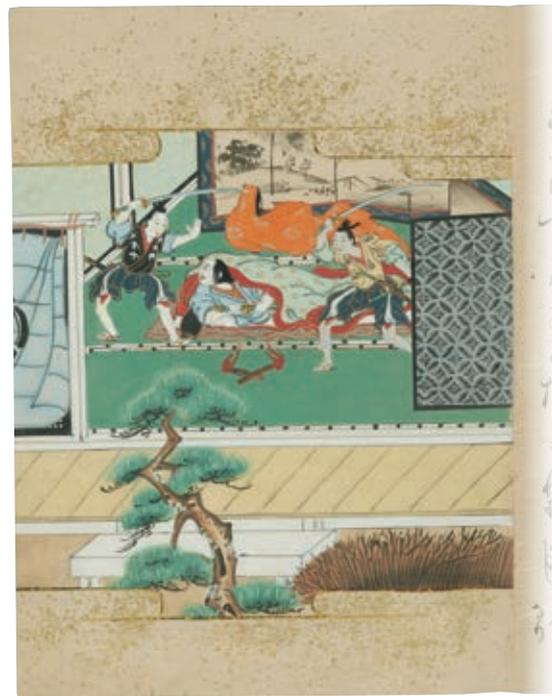


### 「奈良絵本」

室町時代後期から江戸時代中期頃まで制作されていた、彩色絵入写本を指します。用語の由来は諸説ありますが、地名・時代の「奈良」とは無関係です。平安時代の物語文学や鎌倉時代以降の軍記物語を素材とするもの、それらより後の時代の文芸・芸能である御伽草子<sup>※</sup>・幸若舞曲などに取材したものが作られています。

黎明期には、個人の手になると思われる素朴な絵柄の作品がみられる一方で、17世紀後半頃の最盛期には、専門の絵草紙屋が大名や富裕層からの注文を受けて制作したと思しき、絢爛豪華な作品も登場します。卷子本・横型冊子本・縦型冊子本などの形態があり、高さは16cmほどのものから、30cmを超えるものまで様々です。

※主に室町時代に作られた短編の物語。室町時代以降、多くの庶民に親しまれた。江戸時代には、人気の御伽草子23編を集めた『御伽草子』が出版されており、『一寸法師』や『浦島太郎』と並んで、次ページで紹介する『御曹子島渡り』も、収録されている。



第16冊、曾我兄弟が父の敵・工藤祐経（中央）を襲撃する場面。この後、兄弟は祐経を討ち取り、仇討ちを遂げる。



馬人島の場面。上半身が人、下半身が馬の姿で描かれている。



## [御曹子島渡り]

<請求記号 WB35-9>

[江戸前期] [写]

3軸 紙高32.2cm

奈良絵本（彩色絵入写本） 書名は内容による 卷子装  
 （第1軸：42紙継、第2軸：28紙継、第3軸：43紙継、  
 全15図） 漢字平仮名交じり 金泥彩色 緑色裂表紙  
 見返し：金箔散らし



本書は『御曹子島渡り』という御伽草子を題材とした奈良絵本です。源義経を主人公とした「判官物」と呼ばれる物語の一つで、兵法書を求めて、半人半馬の馬人が住む馬人島、裸の者ばかりが住む裸島など様々な島を巡る冒険譚となつていきます。物語の成立は室町時代頃と言われています。

『御曹子島渡り』の奈良絵本は、本書以外にも何点か伝わっていますが、本書に含まれる15図の挿絵は、現存する伝本の中でも多く、その作風から江戸時代前期の作品

であることが推測されます。また、他の伝本と比較すると、挿絵を中心に独自の特徴がいくつも見られます。例えば、江戸時代に出版された『御伽草子』では上半身が馬、下半身が人として語られる馬人島の島民が、本書では上半身が人、下半身が馬の姿で描かれているといった点などです。

こうした違いには制作者もしくは発注者などの意向が反映されている可能性もあり、作品や制作の背景などを研究するうえで、貴重なものといえるでしょう。



裸島の場面。御曹子が裸で過ごす島民に紺色の布を与えている。



小人島の場面。小人島は菩薩の現れる島でもあるという一節があり、来迎図が描かれている。



島巡りの果てに喜見城に辿り着き、兵法書を所有しているかねひら大王とその娘朝日天女と出会う場面。この後、御曹子は朝日天女と契りを結び、その手引きで内密に兵法書を書写する。

# 国立国会図書館で働いています

no. 6

憲政資料室もまた歴史を積み重ねてきているんだ、っていうことを思います



憲政資料係でのお仕事について教えてください。

政治家や官僚、軍人の個人資料を収集して整理して、憲政資料室での閲覧に出して、保存し

て、という一連の流れがあります。最近ではデジタル化にも

取り組んでいます。

収集の時にはご遺族のお家に伺うこともあるんですか？

そういうこともあり

ます。資料を受け取ったら虫害予防のために燻蒸したり様々なプロセスがあります。

向こうからお申し込みすって声がかかってくるんですか。誰か仲介の方がいるとか。

いろいろなパターンがあります。仲介の大

学の先生がいる場合もあれば、ダイレクトに電話がかかってくることも。あとはお代替わりとか、追加資料が残っているらしいみたいな情報を得てアプローチするとか。

それで着実に増えていってるわけですね。

憲政資料（蒐集）係の設置は昭和24（1949）年で、現在は、約42万点です。

そもそも学生時代から研究のために国立国会図書館（以下「NDL」）に通っておられたのでしょうか。

研究ってほどでもなく、ただ大学図書館にないものを見に来ていました。戦前のマイクロフィッシュを主に見に来ていて、その他、地図室

科学技術・経済情報室などが行き先でした。

ユーザとして使ううちに、NDLに就職したい、と。もともと、有泉貞夫さんという当館

OBの『明治政治史の基礎過程』（吉川弘文館、1980）のあ

とがきに、試験で入ったということが書いてあったのと、大久保利

謙先生（憲政資料室の創設者であり大久保利

通の孫）の『日本近代史学事始め』（岩波新

書、1996）という本を読んでいると憲政

資料室のことがすごく出てくるので、勝手に想像したり、利用した

りという感じで、「近現代日本政治関係人物文献目録<sup>①</sup>」を使って、便利な付加価値を与える仕事もあるんだ

と思っていたというのもあって。でもしつかりした動機はなく、色々

と行き詰まった結果、受けたら受かったという感じです。

ちよつと意外でした。入ってすぐ憲政資料係に配属でしたね。

## 葦名 ふみ 利用者サービス部 政治史料課 憲政資料係長

平成16(2004)年4月	主題情報部	政治史料課	憲政資料係
平成20(2008)年4月	調査及び立法考査局	議会官庁資料課	議会・政治資料係
平成22(2010)年4月	//	調査企画課	企画係
平成23(2011)年4月	主題情報部	政治史料課	憲政資料係
平成24(2012)年4月	利用者サービス部	政治史料課	憲政資料係(組織改編により部の名称変更)
平成26(2014)年4月	//		憲政資料係長

聞き手：総務課編集係

令和2(2020)年7月8日インタビュー

ベテラン職員が配属されるイメージだったので、自分が新人で入るということは衝撃的でした。当時は新人が毎年連続で配属されていて、若返りを図っていた時期だったみたいです。

配属初日に陸奥宗光の関係文書の中にあつた蹇蹇録の草稿をご覧になつたと。

地下7階の書庫案内のついでに、封筒から取り出して見せてもらいました。憲政資料室を利用していたといっても、原本にあたるのは数点で、冊子複製版みたいなものやマイクロフィルムを見ていた程度だったので、自分にとっての『蹇蹇録』は岩波文庫。完全に刊本で活字を見るイメージでした。でも、草稿には書き込みがびっしりあるものなんですよ。生身の資料を突然間近で見ると、一次的な資料の力に驚きました。また、働きたすと、資料の数え方の単位が一点とか二点とかだけじゃなくて、段ボール何箱という箱単位で換算されるのが、面白いというか、知らない世界の感じがあつて。

新人時代はどんなお仕事？

封筒の入れ替えとか、そういう仕事からスタートしました。入館後間もなく、ある講演会に行った際、歴史資料にかかわる人材育成の話があり、「丁稚奉公ではなくシステムとしてどのように人材を育てるか」といった話を聞いたことがありましたが、お話の趣旨もよく分かったのですが、そのときの私は丁稚奉公というのも、わかるかなと感じた気がします。若かったせいもあって、パーツみたいなものではないかというのを面白く感じていました。今二度目に配属された時よりは、新人の時の方がずっと面白かったかもしれません。新人でできることが少なかつた。先輩方が複雑な仕事を代わってくださっていたのかもしれない。その比較的資料と向き合う時間みたいなのが用意されていたのかもしれない。「史料にみる日本の近代」といった電子展示会の仕事も末端で手伝っていました。

政治史料課憲政資料係に4年いらして、次は議会官庁資料課（以下「議会課」）議会・政治資料係に異動さ

れましたね。その後調査企画課を経て憲政資料係に戻ってこられたんですね。

新人として4年は長くなってしまったので、議官課に異動しました。日本と外国の議会資料、あと軍事を扱っていました。自分がユーザーでもあった「近現代日本政治関係人物文献目録」を作ったりとか。私、議会の資料は基本的には速記録しか見えていないところがあつたんです。だけど議官課には当然、速記録以外に議事録、委員会の会議録、法案などの議案類、請願文書表とかいっぱいあるので、その資料の流れを、政治家の文書にあたる憲政資料と頭の中で照合させると、面白く思いました。憲政資料の一部が、委員会配付資料の切れっぱしだと気付く、とか。その後、憲政資料係に戻った時に再びそれを実感しました。憲政資料の中に議会資料の草案がある。同じ案文でも、議会での議員配付資料としてみるのか、配付資料の草案としてみるのか。議官課に行つて初めて、議会資料の印刷物の体系や文書の形式を知りえたからこそ、見た目が全

然違うものでも「これ、議会での配付資料の萌芽だよ」ということが初めて想像できるようになりました。異動の妙でしょうか。

異動の妙（笑）。

『衆議院公報』といった公報・彙報の雑報欄などには、議員全員に配つた小冊子の名称が書いてあることがあります。憲政資料係に戻つたら、なぜか多くの政治家が保管している小冊子がある。あ、これは議員に配られたお仕着せの資料だったのね、と。そうすると資料の見方が変わってきますよね。いろいろ考えて持っていたのか、いやいや、ただ配られただけだよ、とか。位置づけが違ってきて。

断片だった資料が繋がって、広い文脈が見えてくるんですね！

でも、記録としてやっぱり一番好きなのは会議録ですね。会議録は複雑



「蹇々餘録草稿綴」上

(1) 明治期以降、政治の分野で活躍した日本人に関する文献について、人物名から関連文献を検索できる。<https://mavi.ndl.go.jp/seiji/>

(2) 陸奥宗光が執筆した日清戦争関係の外交記録。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能。「蹇々餘録草稿綴」上、下（陸奥宗光関係文書66-2,66-3）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3947397> <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3947842>

な種類と過程をたどっていますが、とにかく時代の息吹が連続と、系統的に残っている。ただ、会議録に載っていないことっていっぱいあるじゃないですか。NDLでは会議録の提供が圧倒的に先行していて、それ以外を目配りしにくいところもあって。そこはすごい弱いというか。ユーザーとして言えば、会議録だけ見ていたって穴があるでしょ、ここに穴があるからこの記録も一緒に見ないといけないよね、と。たとえば議案の提出者は会議録に全員は載せないけれど、歴史学の観点からすると、提出者、賛成者全員の情報が欲しいんですね。日本の速記録は時期が経つごとに速記部分以外の掲載事項が増えていくので分かりにくいのですが、速記以外はあくまで部分的に載せていくものなので、速記録なり会議録の全文だけ見ていると、歴史学的にはちょっと足りないんです。情報が必要ないことに自分でも気づけないときがある。それはとても危険です。

の中の明治・大正」の京都のインクラインのコラムもありましたね。入館してすぐでした。京都の写真のコラムを依頼されて、みなさん神社仏閣みたいなのを書くから、ちょっと変わったことがいいなと思って。京都蹴上のインクライン(傾斜鉄道)に行ったことがなかったのですが、写真と文献を見て書いたんです。それが、数年前に現地に行ってみたら立て看板に見覚えのある写真が。コラムに掲載した写真でした。キャプションの入れ方からして電子展示会からの転載だと思わんですよ、たぶん。「あ、私の選んだ写真が！」と、とてもうれしかった(笑)。

インクラインの写真は世の中いっぱいあるのに、NDLのサイトに載ったから、きつと見つけられたんだと。立て看板はみんなが見るわけだから、NDLの力を感じました。

使がなくなった時に、写真を管理替えするための送付状とかを見せられて。それで一時期、開拓使のことで頭が一杯になってしまっ

た。周辺ではところどころ開拓使が出てきますが、それもまさに周辺でしょうか。

周辺かどうか分かりませんが、開拓使は北海道にたまたま遊びに行ったら、立て看板に開拓使の写真がたくさんあって、なぜ、どうやって残ってきたかが気になりました。赤れんがの北海道立文書館に行くと、開拓

使がなくなると、よいのだからなと……。政治家、官僚、軍人、といった人たちの書簡や日記ばかりだと思っただけです。実際にはそういった中心があっただけで端っこが生きるのかなとは思っています。

現在、月報で「写真を読む」という連載をされていますね。会議録や議案資料のほかには、土木や河川、写真、とずっと興味が変わらないう感じですか。



京都のインクラインの立て看板(筆者撮影)。

端っこにあるものって愛おしいという感じがあって。月報で今連載している古い写真も、あまり知られていない写真が多いのです。

連載ではところどころ開拓使が出てきますが、それもまさに周辺でしょうか。

周辺かどうか分かりませんが、開拓使は北海道にたまたま遊びに行ったら、立て看板に開拓使の写真がたくさんあって、なぜ、どうやって残ってきたかが気になりました。赤れんがの北海道立文書館に行くと、開拓

使がなくなると、よいのだからなと……。政治家、官僚、軍人、といった人たちの書簡や日記ばかりだと思っただけです。実際にはそういった中心があっただけで端っこが生きるのかなとは思っています。

現在、月報で「写真を読む」という連載をされていますね。会議録や議案資料のほかには、土木や河川、写真、とずっと興味が変わらないう感じですか。

周辺ではところどころ開拓使が出てきますが、それもまさに周辺でしょうか。

周辺かどうか分かりませんが、開拓使は北海道にたまたま遊びに行ったら、立て看板に開拓使の写真がたくさんあって、なぜ、どうやって残ってきたかが気になりました。赤れんがの北海道立文書館に行くと、開拓

使がなくなると、よいのだからなと……。政治家、官僚、軍人、といった人たちの書簡や日記ばかりだと思っただけです。実際にはそういった中心があっただけで端っこが生きるのかなとは思っています。

現在、月報で「写真を読む」という連載をされていますね。会議録や議案資料のほかには、土木や河川、写真、とずっと興味が変わらないう感じですか。

周辺ではところどころ開拓使が出てきますが、それもまさに周辺でしょうか。

周辺かどうか分かりませんが、開拓使は北海道にたまたま遊びに行ったら、立て看板に開拓使の写真がたくさんあって、なぜ、どうやって残ってきたかが気になりました。赤れんがの北海道立文書館に行くと、開拓

使がなくなると、よいのだからなと……。政治家、官僚、軍人、といった人たちの書簡や日記ばかりだと思っただけです。実際にはそういった中心があっただけで端っこが生きるのかなとは思っています。

現在、月報で「写真を読む」という連載をされていますね。会議録や議案資料のほかには、土木や河川、写真、とずっと興味が変わらないう感じですか。

周辺ではところどころ開拓使が出てきますが、それもまさに周辺でしょうか。

周辺かどうか分かりませんが、開拓使は北海道にたまたま遊びに行ったら、立て看板に開拓使の写真がたくさんあって、なぜ、どうやって残ってきたかが気になりました。赤れんがの北海道立文書館に行くと、開拓

なるほど。会議録に関する論文も書かれていますが、電子展示会「写真

周辺ではところどころ開拓使が出てきますが、それもまさに周辺でしょうか。

周辺かどうか分かりませんが、開拓使は北海道にたまたま遊びに行ったら、立て看板に開拓使の写真がたくさんあって、なぜ、どうやって残ってきたかが気になりました。赤れんがの北海道立文書館に行くと、開拓

使がなくなると、よいのだからなと……。政治家、官僚、軍人、といった人たちの書簡や日記ばかりだと思っただけです。実際にはそういった中心があっただけで端っこが生きるのかなとは思っています。

周辺ではところどころ開拓使が出てきますが、それもまさに周辺でしょうか。

(3) 「『国会会議録』前史：帝国議会 議事録・委員会の会議録・速記録・決議録の成立と展開」『レファレンス』2013年1月、63(1) <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/6019127>

(4) 「京都インクラインと琵琶湖疏水」[https://www.ndl.go.jp/scenery/column/kansai/kyoto\\_incline\\_and\\_lake\\_biwa\\_canal.html](https://www.ndl.go.jp/scenery/column/kansai/kyoto_incline_and_lake_biwa_canal.html) インクラインとは、琵琶湖の水を京都に引き込む疏水工事(明治18-23年)の一環としてつくられた、船を運ぶための鉄道。

(5) 「資料の世界の歩き方 写真を読む」本誌2019年5月~不定期連載。

(6) 同上、2019年12月号

設50周年(1940)のときからほぼ10年ごとに行っていて、戦前の場合は天皇に見せるという趣旨がすぐあった。でも今はそうじゃない。国民の啓発というとあまりに上から視線なんですけど、その意味は何なのか。NDLは戦後すぐの時期に、議会の活動を支える、活動を国民に知らせるといふミッションを担って誕生しているのかなと思うんですが、だんだん文献とかも手に入りやすくなってきた今、私たちが議会の図書館として何かする意味って何なんだろうってことを時々考えたり。国会の調査依頼の回答や議会資料の提供など諸々ある中で。うまく言えないんですが。

会議録って非常に静的な記録ですが、そこに息づく人たちがいる。当たり前なんですけど、議員とか、いろいろな人がそこにいるわけですよね。実際、空間があって、歩いて。それをリアリティをもって体感する。今回の展示でもそういうのが伝わればいいのかなと。あとは日記の電子展示会を準備して、新たに5万コマくらいの日記資料をデジタル化して、今まで複製がな

敷居が高かったものを中心にネット上で提供します。40人分くらい。これも、チームで共同作業でやっている、外部の先生方もたくさん原稿を書いでくださっています。

画期的な電子展示会ですね。その当時の公的立場にある人って、見られることを想定して書いているんですか？

例えば原敬だったら残すために書いていたといわれています。見られることを前提にしている人はいるかなとは思っていますけど。単純にスケジュール中心に書く人もいたり、自分の家族についてけっこう触れている人もいたり、もらったお手紙について書く人もいたり、いろいろです。

資料には書簡もあるとのことですが、憲政資料の寄贈者、寄託者の方にお手紙を書くことも多いんですか？

名前のせいかもしれないんですけど、私は手紙を書くことは好きかもしれないです。小さい頃は暑中見舞いとか書くの好きで。都度、俳句とかも添えて。

小さい時から!? それはすごい!!  
今だったら恥ずかしくて絶対詠めないし、知識も皆無です。他愛ないものですよ、蟬とか、何かそんな感じ。

今はメールとか便利な反面、人との生身の付き合いみたいなものが減りがちですね。

資料にご家族とかご子孫の方が強い思いを込められているときってあると思うんですよ。私たちにとっては正直、いろいろお預かりしているものの一部。でもおうちの方にとっては大事な一点。国の機関だから預けてくれているという、それだけのことではあるんだけど、その方にとっては本当に大事なものだし、惜しいものなんですよね。むしろ大事だから手放される

みたいなのがあるのだと思います。

ご子孫が見学にいらっしゃるのがすごいうれしくて。この前、47年ぶりの寄贈というのがありました。お父

様をご寄贈されていたんですが、代替わりされて追加資料とかが出てきて。「顧みればお父様から資料をお預かりさせていただいてから五十年近くが経過しております」という手紙を書きながら、時間が長いなと思つて(笑)。

その時、まだ自分生まれしていないし(笑)。

こちらは代替わりじゃないんですけど、先様は代替わり。憲政資料室もまた歴史を積み重ねてきています。だ、つていうことを思います。



(上) 寄贈者のご家族やご知人、仲介者の方々と、NDL東京本館の模型の前で。  
(下) 三島通庸関係文書の冊子複製版を手に。憲政資料室にて。

令和2年2月20日、関西館に新しい建物が完成しました。その名も「書庫棟」。その名称が示すように「書庫」がメインの建物で、増加し続ける当館の資料を収蔵する上で重要な施設となります。

書庫棟建設の第一歩は、約6年前に設計業務からスタートしました。設計会社、整備局と当館とで、様々な検討事項について、毎月の定例会議で熱く議論しました。立場は違っても、書庫が図書館サービスを行う上で欠かせない施設であることを出席者全員が十分理解していて、「良い書庫を造るためのチームワーク」を私は肌で感じました。

私は、建物の設計に携わるのは初めてで、会議で交わされる言葉も初めて聞く専門用語が多く、みなさんの足を引っ張ってばかりでしたが、優しく支えられ、必要な要件を伝えるとともに、色々なことを教えていただきました。

約2年をかけた設計業務が終わると、工事発注手続き期間を経て、敷地の掘削を手始めに3年半におよぶ工事の始まりです。

搬出する土は約15万㎡にもなり、残土のリサイクルが課題の一つでした。近隣の工事の予定があると聞けば、「良質の土はご入用ではないですか？」と国や地方自治体等に「営業」しましたが、受入れ条件が合わずに断られることも多く、決して順調ではありませんでした。しかし、粘り強く交渉した結果、一部を河川改修工事や国道建設工事等で有効利用していただくことができました。この搬出作業で使用された車両は、延べ約3万台にもおよびます。

その後、基礎工事↓鉄骨の組み上げ↓外装工事↓内装工事と工事は順調に進捗しました。

工事が開始されてもチームワークの良さは健在で、毎年10月には、工事関係者が集まり、ドローンで集合写真を撮影するのが恒例となりました。この集合写真のおかげ(?)で、現場の一体感が年々強まっていくのを感じました。

そして、書庫棟が完成したあと、関西館は工事前の静けさを取り戻しましたが、毎日のように顔を合わせていた工事

関係者のみなさんは、各地の新しい現場に行かれてしまい、自分だけが取り残された寂しい気持ちにもなりました。

しかし、6月下旬から資料の移送・移転作業が開始され、書庫棟の書架が資料で埋まっていく様子を見ると、書庫棟が書庫として機能することを見届けるのが工事関係者の熱い想いを受け継ぐことになるかと信じて、気持ちを切り替えて、移送・移転作業をサポートしていきたいと思えます。

(関西館総務課 鷹ファン)



上から着工1年目、3年目。



## チームワークの賜物 関西館「書庫棟」誕生！

# 本屋に

# ない

# 本



狩谷掖斎と経籍訪古志  
大東急記念文庫所蔵の漢籍から  
五島美術館大東急記念文庫 編集・発行  
2019.6 24p 21cm  
<請求記号 Y93-M2585>

昨年は古典籍ファンには嬉しい年であつた。「特殊文庫の古典籍―知の宝庫をめぐる珠玉の名品と出会う―」という企画のもと大東急記念文庫（五島美術館）、東洋文庫、斯道文庫、金沢文庫、静嘉堂文庫の連携展示が開催されたのである。なかでも創立70周年を迎えた大東急記念文庫の展示は、四部分に分け、半年間にわたり開催された。本書は、その第3部の展示「書誌学展―経籍訪古志の名品を中心に―」の図録である。

が主催した漢籍に関する研究会の成果を、弟子たちがその遺志を継いでまとめた、当時日本に現存していた漢籍書本の解題目録が『経籍訪古志』である。掖斎と『経籍訪古志』は、書誌学史に名を刻む稀代の学者と「日本の江戸期における書誌学の一つの到達点を示す」書籍なのである。

次いで拓本が望ましいが小野道風「絹地切」模刻に関しては拓本には欠ける筆勢がうかがえるとの考察、真福寺所蔵の『漢書』は欠画（天子などの名に用いられた字の画を略すこと）により唐鈔本と判断した見解などが紹介される。掖斎旧蔵の明版『史記』が掖斎門下の岡本況齋に引き継がれた後、況齋が所持しているうちに、先に門人木村正辞が印を捺すことで、さらに死後正辞に譲る証とした逸話も、後学の掖斎への敬慕が表れているようではないか。図録を読み進むと、掖斎や門人のみならず、展示担当者の掖斎や書物への思いまで感じられる。その思いがあればこそ、漢籍の書誌学という地味だが重厚なテーマを取り上げて展示企画を練り上げ、図録を作成し得たのであ

ろう。

なお、延慶本『平家物語』などのお宝から近藤勇の短冊といった珍品まで展示した第1部「大東急記念文庫の精華」、鑑真の伝記『唐大和上東征伝』や陽明学の祖、王陽明の筆跡などを展示した第2部「海外との交流」、同文庫に縁の深い書誌学者川瀬一馬（1906―199）の業績に即して五山版や古活字版などの逸品を展示した第4部「書誌学展II 近代そして現代へ」の図録は残念ながら刊行されていない。だが、村木敬子・長田和也両氏が「大東急記念文庫 七十年の歩みとこれから」（『書物学』16）に全四部の概要を紹介している。併せて一読をお勧めしたい。

（大沼宜規）

※諸本を比較し本来の本文を復元すること。

狩谷掖斎、『経籍訪古志』といつても、ピンと来ない人も多いかもしれない。掖斎（1775―1835）は江戸時代後期の考証学者。善本を蒐集、校勘し、珍しい資料を手に入れ摸刻した冊子や刷物を作った。そして、掖斎

が並ぶ。選びぬかれた展示資料には写真とともに解説が付されている。たとえば掖斎による、書を学ぶには真跡に

を練り上げ、図録を作成し得たのであ

（大沼宜規）

※諸本を比較し本来の本文を復元すること。

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

## 国際子ども図書館開館20周年記念展示会 「平成を彩った絵本作家たち」

国際子ども図書館では、令和2（2020）年が開館20周年に当たることを記念し、9月29日（火）から12月27日（日）まで、展示会「平成を彩った絵本作家たち」を開催します。

この展示会では、国際子ども図書館の歩みとともにあった平成の時代に活躍した日本の絵本作家35名に焦点を当て、それぞれの作家が生み出した絵本を通して平成を振り返ります。あわせて、昭和に刊行され、平成でも親しまれた絵本、東日本大震災を始めとする平成の震災を扱った絵本なども取り上げます。

個性豊かな数々の絵本から、平成という時代の多様性の一端が感じられることでしょう。

- 開催期間 9月29日（火）～12月27日（日）
- ※月曜日、国民の祝日・休日、毎月第3水曜日（資料整理日）は休館
- ※開催予定が変更になる場合があります。最新情報については、国際子ども図書館ホームページなどをご確認ください。
- 開催時間 9時30分～17時
- 会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム
- 問合せ先 国際子ども図書館資料情報課展示係  
電話 03（3827）2053（代表）



展示会「平成を彩った絵本作家たち」ちらし

## 第22回図書館総合展（オンライン開催）に参加 します

11月1日（日）から11月30日（月）にオンライン開催される「第22回図書館総合展」に、国立国会図書館も参加します。

図書館総合展のウェブサイト上で、国立国会図書館の様々なサービスをご紹介します。また、期間中に次のフォーラム（オンラインイベント形式）を開催します。

### フォーラム「ジャパニサーチ正式版公開～書籍等分野の連携及び利活用拡大に向けて」

- 日時 未定（11月4日（水）～11月6日（金）の1日（所要90分）の予定）
- お申込み方法は、後日、国立国会図書館ホームページにてお知らせします。
- 問合せ先 総務部総務課広報係  
電話 03（3581）2331（代表）

- 第22回図書館総合展（オンライン開催）（主催：図書館総合展運営委員会）
- ・期間 11月1日（日）～11月30日（月）
- ・コアタイム 11月4日（水）～11月6日（金）9時～18時
- ・会場 オンライン／図書館総合展公式ウェブサイト



## 関西館への資料移送に伴う資料の利用休止 について

国立国会図書館では、日々増え続ける資料を適切な環境で保存し、書庫を有効に活用することを目的として、東京本館所蔵資料の一部を定期的に関西館に移送しています。

つきましては、今回左記の資料を移送するため、次のとおり利用を休止します。利用者の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ①移送対象資料  
東京本館所蔵のアジア地域発行洋新聞（請求記号：Z91で始まるもの）…約190タイトル約17,500冊
- ②利用休止期間  
9月19日～11月24日（予定）
- ③利用休止中の資料は、国立国会図書館オンラインの所蔵一覧画面に「作業中」と表示してお知らせします。
- ④移送後の利用  
関西館で利用可能です。製本されている新聞については、東京本館に取り寄せて利用することも可能です。ただし、資料の状態によっては取寄せをお断りすることがあります。
- ④問合せ先  
・11月24日まで  
利用者サービス部図書館資料整備課新聞係  
03（3581）2331（代表）  
・11月25日以降  
関西館アジア情報課総括係  
0774（98）1200（代表）

## 令和2年度アジア情報研修

アジア情報の収集・提供に関するスキル向上を図るとともに、アジア情報関係機関間の連携を深めることを目的として、令和2年度アジア情報研修を行います。昨年度に引き続き、日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所と共催で実施します。

○日時 11月26日（木）～27日（金）

○会場 Web会議システム（Cisco Webex Meetings）によるリモート開催

○対象 各種図書館、調査・研究・教育機関、中央省庁・地方公共団体等に属する方、大学院生等。

\*主に日本語・英語の情報源を扱います。

○定員 20名（原則、1機関につき1名）。応募多数の場合は調整します。

○テーマ インドのことを調べよう！ ～法令・政府情報と統計を中心に～

○内容（予定）  
11月26日（木）13時15分～17時25分

科目①「インドの法令・政府情報を調べる」（関西館アジア情報課）

講演「インド情報の入手方法」（講師 堀本武功氏（岐阜女子大学客員教授、公益財団法人日印協会インド研究センター上席研究員）

11月27日（金）9時45分～12時15分

科目②「インドの統計を調べる」（アジア経済研究所学術情報センター図書館情報課）

\*「科目①」及び「科目②」は、実習を行います。

\*受講者の方には、事前課題にご回答いただきます。

○参加費 無料。ただし通信費等は受講者にご負担いただきます。

○申込方法 アジア経済研究所ウェブサイトの以下のページからお申し込みください。

「アジア情報研修 インドのことを調べよう！ ～法令・政府情報と統計を中心に～」  
[https://www.ide.go.jp/Japanese/Event/Library/20201126\\_kansyu](https://www.ide.go.jp/Japanese/Event/Library/20201126_kansyu)

\*申込受付後にお送りする確認メールが届かない場合は、左記までお電話ください。

○申込期限 10月11日（日）

\*参加の可否は、10月13日（火）までにお知らせします。

○問合せ先 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所学術情報センター図書館情報課情報サービス班

電話 043（299）9716

電子メール [aisih@ide.go.jp](mailto:aisih@ide.go.jp)

## 令和元年度利用者アンケートの結果を公表しました

国立国会図書館では、提供する各種のサービスを改善するために、アンケートを実施しています。

令和元年度は、国立国会図書館のサービスを利用されている方々に対する利用者サービスアンケートを今年で実施しました（有効回答数…3466件）。

アンケート結果の詳細はホームページで公表しています。ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。この結果をふまえて、サービスや業務の改善に活かしてまいります。

○アンケートページ

[https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/enquete2019\\_01.html](https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/enquete2019_01.html)

国立国会図書館ホームページ▽国立国会図書館について▽利用者アンケート▽令和元年度利用者アンケート結果

○問合せ先 総務部企画課評価係

電子メール [hyoka@ndl.go.jp](mailto:hyoka@ndl.go.jp)



# 19  
関西館入口の椅子  
photo by Mizuho

## 新刊案内

### 令和元年度国際政策セミナー報告書

「雇用と賃金を考える―労働市場とEBPM（証拠に基づく政策形成）」

最低賃金引上げは格差と貧困を是正するか？  
最低賃金は有効な貧困対策か？  
日本の貧困の現状と最低賃金について



A4 125頁 不定期刊  
ISBN 978-4-87582-863-1  
以下のURLからPDFファイルをご覧ください。  
[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_11533740\\_po\\_202002.pdf?contentNo=1](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11533740_po_202002.pdf?contentNo=1)

### 令和元年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「絵本からヤングアダルト文学まで―児童文学基礎講座」

この本よんだ？ 小学校中高学年に向けて  
ヤングアダルト文学概観  
多彩なテーマで幅広い読者をつなぐ絵本の魅力  
幼年童話事始め  
国立国会図書館が提供するデータベース紹介―子どもの本を探すには



A4 104頁 年刊 1,700円(税別)  
発売 日本図書館協会  
ISBN 978-4-87582-862-4

## レファレンス 834号

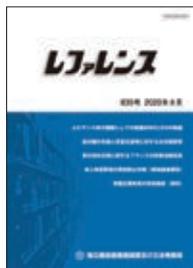
買物弱者問題  
民主主義のための教育―アメリカのシテイズンシップ教育の動向―  
通信の秘密をめぐる議論の諸相  
スイスの新型コロナウイルス感染症対策―新型コロナウイルズ感染症(COVID-19)第2次命令―(資料)  
カレン・アロフほか「議会への科学助言に関して共同して導き出された国際研究アジェンダ」(翻訳)(資料)



A4 127頁 月刊 1,000円(税別)  
発売 日本図書館協会

## レファレンス 835号

エビデンス仲介機関としての英国WWCLEGGの取組  
―英国における地域経済成長政策とEBPM―  
我が国の外国人児童生徒等に対する日本語教育  
軍の海外任務に関するフランスの刑事法制改革  
成人性犯罪者の再犯防止対策―大阪府に位置する諸機関の取組事例―(現地調査報告)  
英国主要政党の党員制度(資料)



A4 116頁 月刊 1,000円(税別)  
発売 日本図書館協会

## カレントアウェアネス 345号

データ引用を研究活動の新たな常識に…研究データ活用協議会(RDUF)リサーチデータサイテーション小委員会の活動  
グローバル時代の学校図書館―国際ハカロレアからの示唆―  
マンガ図書館におけるマンガ以外の所蔵資料  
Machine-actionable DMPs (maDMPs)の動向  
「おはなし給食」の近年の動向  
研究文献レビュー  
2010年代の学校図書館に関する日本国内の研究動向…  
研究の多様化と学校図書館を取り巻く状況の変化を踏まえて



A4 32頁 季刊 400円(税別)  
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ  
日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03(3523)0812

# 9/10

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2020.9/10

NO.713/714

SEPTEMBER /OCTOBER  
2020

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>  
Smiling people—*Nikoniko shashincho*
- 06 Exploring the new Kansai-kan Storage Annex
- 16 55th Committee on Designation of Rare Books  
Materials recently designated as rare books
- 26 Working at the NDL, Episode 8
- 30 <Tidbits of information on NDL>  
A gift of teamwork—the New Kansai-kan Storage Annex!
- 31 <Books not commercially available>  
*Kariya ekisai to keiseki hokoshi*
- 32 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和2年9/10月号 (No.713/714)

令和2年10月1日発行

発行所 国立国会図書館  
編集者 三浦良文  
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)  
<http://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。

表紙・本文 中性再生紙使用



NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2020.9/10

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六